

蓬萊町だより

第 五 号
昭和58年6月15日
発行 蓬萊町会
編集 文 化 部

蓬萊町界隈(その二)

昆虫譜 せみとりのこと

林 順 信

蓬萊町は大東京のと真中だから、山や川があるわけではなく、何が昆虫譜だ、オーバーもいいとこだとお叱りを受けるかも知れないが、戦前の昭和十年前後には、町内のお寺の庭や権現様の境内に行けば、結構いろいろな昆虫がいて、中には、大図鑑の中にも珍種として記されているものも獲れたりしたのである。でも、なんと言っても子供たちに人気のあったのは、せみととんぼであった。紙数の関係で、今回はせみとりの話だけを書かせて頂くことにした。

戦後は、どこもかしこも市街地化して、土とか泥の表面積が極度に減ったので、虫の家がなくなってきたが、清流にすむとんぼの被害が最もひどく、地中に生活しているせみの方は、それほどではないから、今日でも、まだまだせみの鳴き声は聞くことができる。

(1) 今日と異って娯楽の少なかった戦前の子供たちの楽しみはお緑日だった。六月三十日と七月

一日には、蓬萊町辺で育った子供たちは、こそって、富士前の駒込お富士さんのお緑日に行った。梅雨時の雨雲が空低くたれこめて、何時降るかわからない、しめつぽい風に吹かれながら、歩いてお富士様までお参りに行って、吹き矢を買ったり、やきそばを食べたりしたものである。

この時には、まだ蓬萊町でせみの声を聞くことはできなかったが、その次の大観音様のご縁日になると、待ち遠しかった、「にいにいぜみ」の声を聞いた。正式にはこう呼ぶせみを、東京の子供たちは「ちーちーぜみ」と言っていた。

「ちいー ちいー」と、途切れることなく、長い声で鳴くこの「ちーちー」は、毎年判で押したように、七月九日か十日に地上に現われる。

丁度、さくら前線と同じように、せみにもせみ前線があつて、「ちーちー」は、四万六千日に鳴き出すのである。蓬萊町の光源寺の大観音は大したもの、今次の戦災で灰燼と帰した東京中の文化財の中でも、この大観音様だけは勿体ないことをしたと、三十八年経た今日でも、時々そう思うもので、高さ一丈六尺、奈良の長谷観音のうつしと言ひ、お堂の上の方に高窓があつて、金色に輝くご尊顔を外から拝められた。

本堂の脇に観音堂があつて、下は土間になっていて、三百年も前の貞享年間にできたという大観音様の左右には、いろいろな仏像が勧請してあつた。そのご緑日には、近頃から多勢の善男

善女がお参りに来るので、団子坂の通りは通行止めとなった。境内には二、三の見世物小屋までかかつて、この七月九日と十日は、子供たちの嬉しい二日間であつた。

閑話休題 「ちーちー」は、体が小さい黒茶色で、羽も黒と茶のんだら模様で、決して風采は上がらないが、どこか可愛らしいせみで、都心での初物だけに珍重された。松尾芭蕉が山形の立石寺でよんだ「静けさや 岩にしみ入るせみの声」の主は、この「ちーちー」であつたにちがいない。「岩にしみ入る」とは、まことに巧い表現である。このせみは、けやきや榎の高い高いところで鳴くものだから、なかなか姿を見つけない。そして二・三匹で合唱でもされようものなら、方向性に迷いが生じて、正体がわからないので、首が痛くなる程上を向かされる。時には、あけた口にせみの小便が飛び込んて来ることもある。

せみとりには四通りあつて、一、手でつかまえる。二、もち竿でとる。三、袋でとる。四、くもの糸でとるの四つであるが、手でつかまえるのは、余程のチャンスがないと無理で、せみが低くとまっている、東大の三四郎池のほとりと、お茶の水の神田川のほとり以外は、人間を警戒して、高いところにとまっているからだめであつた。木によじのぼってとるのも成功率は低かつた。一般にはもち竿がせみの場合には多

かった。

蓬萊町の郁文館から旧電車通りに出る商店街の左側、川越屋より少し東の反対側に、前田のおばあちゃんのやっていた駄菓子屋で、もちを買った。大きな円筒形のブリキ缶のふたをとると、もちの香りがぶーんと匂った。割箸を半分に短く折った先に、くるくるくると、まるで紙芝居屋の水飴の様にしてもちをくるんで、確か一銭で買ったと思う。もち竿は、朝顔のつるを這わせるしの竹の三倍程の長さのを買ってもちをつける。竿を買う前に、品定めをして、真直ぐで、よくひなる竿を選んでから買った。五錢くらいであったと思う。竿の先端から一米くらいの長さにもちをつける。右手で竿を持ちながら、左手のおやゆびとひとさしゆびにもちをのせて、右手をくるくる巻きながら、つばをつけもちを竿の先端にまで伸ばして行く。駄菓子屋で売っているもち竿だけでは、高い所にいるせみには届かない。私も蓬萊町の名人たちは、もち竿の下に、つなぎ竿を、一本か二本用意して、大体、三階建ての軒位まで高くする。せみとりも大変なもので、上級生ともなると、竿持ちからかご持ちまで、子分を二、三人引っ張って遠征する。後で、子分たちにその日の収穫を分けてやる。同じところを廻っても、一、二匹しか捕れない者と、二十四匹も捕る名人と、個人差があった。蓬萊町のお寺で最もせみのいた

のは、海蔵寺だった。ここには寺男がいて、何時も「いしいしい」と追っ放われたので、私どもは、その男のことを「しい」と言った。

「今日は、しいがるすだから平気だよ」なんて言ったものである。でも、そのうち、「しい」とも顔見知りになったので、木戸御免となった。

七月二十一日の夏休みが始まる頃になると、「あぶらぜみ」が町に出て来る。本当に、「みんなぜみ」がコーラスを始めるのは八月十日ごろからである。その頃には、「ちーちー」の声はめったに聞けなくなつて、子供心にも寂しさを覚えたものである。「つくつくぽうし」が夏休みも終わりに近く、まだ何にも手をつけていない宿題が、頭の片隅に占領し始め、暮れ方の夕焼け空が真赤に染まり、天空高くには、秋の訪れを知らせるうろこ雲が漂って、いよいよ第二学期の近づきを観念するのであった。「あぶらぜみ」は、とまる所がでたらめで、電信柱や雨どいや壁など凡ゆるものとまるので安っぽく感じた。

「みんなん」や「おーしんつく」や「ひぐらし」などの、羽の透きとおつたせみの方が、敏捷で神経質だったせいとか、つかまえる子供たちも細心の工夫を凝らした。「みんなん」の宝庫は青桐の並んでいた、昔の松本洋服店の路地だった。今の辻文具店そばの路地である。「ひぐ

らし」は、現在でも、ごくたまに、東大農学部野球場の森や、根津権限の森で鳴き声を聞くことがあるが、このせみは予定して行っても見つけられない、この辺の珍品だった。最も珍らしかつたのは、「しゃーしゃーぜみ」と我々が呼んでいた「くまぜみ」で、日本最大のこのせみは、西の方に飛ばすくらいでもいるが、東京のど真中で鳴き声を聞いたことは、この辺に五十五年住んでいても、前後三、四回位である。昭和十三年頃に一回と、戦後は二回位である。

海蔵寺と権限様の境内と、御茶の水辺で聞いたことがある。科学博物館の昆虫学の黒沢良彦博士に、十年程前に、神保町で「くまぜみ」の声を聞いたので、電話で報告したところ、その「くまぜみ」は、元々は一匹で、箱根の山の方からやって来て、それが「明治神宮」や「四谷」や「神田」を飛び廻っていたのだそうで、このせみの飛翔範囲の大きいのに驚かされた。

前述した、袋でせみをとるのは、直径二十センチ程の円形の吹き流し状の長い袋を、手拭いで拵えるもので、口の円形は、太い針金で作る。余り太いと手で変形ができず、さりとて、余り細いと、ふにやふにやになるので、適当な番線を選んで拵えたものを、多少太目の竿竹の先端に取りつけて、せみが幹にとまっているとところを、上からかぶせてつかまえた。幹が二十センチより細いと、空いた左右から逃げられるので、

手で針金を細長く変形して、せみの上からかぶせるのである。これだと、もちのわづらわしさと、羽をいためることなく生捕りにできた。最後のくもの巣は、これも二十センチ位の直径の輪を作り、今張ったばかりの粘着力のあるくもの巣を、輪一杯に張る様に採集して来て、せみの上からかぶせるやり方で、くもの巣の方から移動していく原理だから、これは強力な武器であった。昨今は、そんな良質の「おにぐも」の巣自体が見付けられそうもない。

でも、最も確実なのは、交尾しているせみを探し出すことで、これは、羽が異様に空間に飛び出してとまっているから慣れると見付け易い。ちょっと可愛そうだが、交尾している木を、片手でポンポンと叩くだけでよい。あわてて飛び立とうとしても、せみは犬と同じで、なかなか離れられないから、そのまま地上に落ちて来る。一発で雌雄が揃うので、昆虫採集向きではあるが、罪の意識が子供心にも生じて余りあと味が良くない。交尾で想い出したが、昭和十三年頃、海蔵寺の中庭で、「あぶらぜみ」と「みんなんぜみ」が交尾しているのを実際に見付けたことがあった。その子がどうなったかは興味があったが、当時のこととて、調べようもなかった。時たま、「あぶら」とも「みんなん」とも区別のつかない様な、変な鳴き声をしているせみがたが、若しかすると、それは、せみのハーフで

あったのかもしれない。

夕方うす暗い森の中で、蚊に喰われながら探した、穴ぜみ（幼虫）の話は、今回はできないので、また後日にゆずりたい。次回は根津権現祭のお神輿の話の予定です。

■ お詫びと訂正

前回の文中、豊田繁さんであるのは、豊田重彦さんの誤りでした。謹んでお詫び申し上げますと共に、訂正致します。

筆者紹介

林 順信氏

昭和三年
昭和二十七年

著書

「汽車辯文化史」
（昭和53年信濃路発行）
「信州の鉄道唱歌」
（昭和55年信濃路発行）
「都電百景百話」
（昭和57年大正出版発行）
「統都電百景百話」
（昭和57年大正出版発行）
筆名「雪延舎閑人」ともいう。

蓬萊俳壇

蓬萊町「俳句幼稚園」

四月句会に於ける会員の作

献体の手続きすませさくら餅

松夫

春眠や猫の爪とぐ音遠し

貞子

那須岳に雪型のこし春来る

笑子

古文書を見し眼の疲れ花の雨

すみ

日南の広がり迫る春の潮

スエ

春宵にめでたき初の句会かな

正義

やわらかに楓若葉の風にゆる

一郎

花もよし酒ある方へ往くもよし

あきら

五月句会で古川沛雨亭先生より「天」をいたゞいた作品

㊦ 白きもの濯ぐ幸あり柿若葉

スエ

町会活動の概要

昭和58年2月から同年5月まで（4か月間）

総務部

1. 2月から5月までに次のように各団体との会議があり、会長が出席しております。
- 3/25 文京区社会福祉協議会
- 3/28 駒込交通安全協合理事会
- 4/7 本郷防火協合理事会
- 4/20 本郷消防協会総会
2. 永らく懸案となっていました蓬萊町会員名簿は、数回に亘る校正を経て3月末に完成、早速にお配りしました。
3. 定例役員会は毎月12日に開催しております。昭和57年度総会は、さる5月28日に開催し、昭和57年度、事業報告並び決算報告、昭和58年度、事業計画及び予算案は議決されましたことを報告いたします。
4. 蓬萊町会神輿倉（根津神社境内）の内装修理を行いました。

防火部

- 2/16 「春の防火運動」実施対策会議
 1. 屋外設置用消火器の増設
- 当町会から文京区役所防災課に要請してあ

りました消火器は、2/25に8か所増設いたしました。

今回の増設を含めると、当町会内の屋外消火器設置箇所は18か所になっております。

2. 各ご家庭の防火査察について

3/4本郷消防署の依頼があり、消防署員と町会役員立会によって各ご家庭の防火状況と合せて防火指導を行いました。

3. 屋内消火器のあっせんについて

消火器については、悪質な販売業者が横行していることから、今回当町会で永田消火器店を選び、回覧によって注文を受けたところ、37本の申込みがあり、すでに現品は業者が直接お届けしました。

4. 町会主催の防火訓練

5/15午後一時から海蔵寺境内において、文京区役所防災課と本郷消防署のご協力を得て、防火訓練を行いました。

起震車による震度体験、消火器の使用方法、三角バケツの放水練習などを習得していただきました。

先般も日本海中部地震によって秋田県を中心に多大な被害をもたらしました。このような災害はいつ起るかわかりません。私達も不時の災害に対する心構えと備えは十分にしておきましょう。

防犯部

5/7駒込警察署から当町会に対し、青少年不良防止対策委員の推選依頼があり、高島副会長、神保防犯部長を委員に推選しました。

婦人部

1. 毎月15日 廃品回収事業
町内皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

2. 5/1〜5/15までの「交通安全運動」には街頭で交通安全PRを行いました。

3. 6月には「昭和58年度 赤十字社員募集」のため、婦人部員が伺いますが、その節には趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いいたします。

文化部

1. 町会員のお子様で本年小学校に入学された方のお名前を左記に載せさせて頂きました。お子様のご成長誠に目出度うございます。当町会から心ばかりの祝品をお贈りいたします。

記

田上奈緒子様	福山 多香様	市角 寛之様
園田奈奥美様	宗像 浩司様	村山 和絵様
服部 正樹様	尾野 映世様	小林 愛子様
大畑ゆみ子様	竹中 美恵様	山田 修平様

2. 蓬萊町「俳句幼稚園」へのお誘い

4月より始めました俳句会も回を重ねるごとに参加される方が増えてまいりました。多少でも興味をお持ちの方は、是非ご参加下さい。

6月の開講日

6月23日(木) 午後7時から

一畑庵 2階に於て

連絡先(八二三)一三六六 池田

交通部

2/16・2/28「春の交通安全運動」打合せ
会議 駒込警察署に於て

春の交通安全運動期間中は、交通部員全員によって、交通の正しいマナーの普及に努めました。

青年部

1. 3/27(日)「歩こう会」久振りに復活、当日

は好天に恵まれ、朝のさわやかな空気をすって、元氣よく大林寺前を出発、不忍の池、湯島天神を経て約6料の道のりを皆さんが完歩しました。参加者50名

2. 4/24(日)「蓬萊町会麻雀、囲碁、将棋の集い」を海蔵寺に於て開催、町内の腕自慢の方が多数参加され賑やかな催しでした。

参加者40名。

蓬萊歌壇

山崎圭雪

心遊ぶ 夜の潮香に ふいをつく

一閃の光 なにを照らすや

水槽に 躰ぶつけて泳ぎつつ

イルカは人間の 玩具となりぬ



計 報

当町会にお住いの方で、2月から5月までの間に逝去された方々のご氏名は左記のとおりでございます。

謹んで弔義を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

西形うめ子様 今堀ふゆ様 小林ゆき様

編集部

「蓬萊だより」も2年目に入り、会員の皆様に愛読される誌面をと、係一同苦心しております。

今回も「蓬萊町界隈」その二を民俗文化研究家の林順信氏からご寄稿願っております。

また、前号より「蓬萊歌・句壇」を設けましたので、会員皆様のご投稿をお待ちしております。

「町会活動の概要」については、主たる行事についての掲載してありますのでご了承下さい。

なお、本町会の事業活動について、ご意見等がございましたら文化部あて、ぜひお寄せ願います。

連絡先(八二三)一三六五 池田

編集委員

小林音吉 竹中一馬 猪熊良晃

高橋一郎 翁 松夫 池田 暉

※ 次回の発行は9月を予定しております。

昭和57年度決算報告書

昭和57年4月1日～昭和58年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	45,935	区より	総会費	92,560	会場費及茶菓子代
町会費	1202,525		会議費	82,100	役員会々場費, 茶菓子代
補助金	158,000		渉外費	115,400	関係団体等
寄付金	64,500		備品費	55,300	維持費, 購入費
雑収入	92,025		事務費	94,050	
銀行利息	3,165		通信・交通費	60,000	
			電気代	87,308	防犯灯, 維持費含む
			防火部	50,000	防犯訓練費他
			防犯部	49,350	防犯訓練費他
			交通部	22,500	交通安全運動費他
			衛生部	27,050	
			文化部	130,570	蓬萊町だより・成人・新入学祝
			婦人部	121,975	
			青年部	250,000	敬老費他
			慶弔費	24,000	あるこう会, 夜警費他
			消耗品費	157,230	
			防災積立金	100,000	期末累計¥1419,675
			繰越金	46,757	
合計		1,566,150	合計		1,566,150

昭和58年5月22日

収支決算上記の通りと報告します。

町会長 久 貝 貫 一 ㊟

上記の決算相違なき事を証明します。

会計 川 西 正 造 ㊟

会計監査 原 典 順 ㊟

昭和58年度予算書

昭和58年4月1日～昭和59年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	46,757	前年度より	総会費	130,000	会場費及茶菓子代
町会費	1,250,000		会議費	110,000	役員会々場費, 茶菓子代
未過年度会費	100,000	区より	総務部	50,000	
補助金	158,000		渉外費	120,000	関係団体等
寄付金	10,000		備品費	100,000	維持・購入費
雑収入	100,000		事務費	100,000	
利息	3,000		通信・交通	60,000	
			電気代	100,000	防犯灯, 維持費を含む
			防火部	50,000	
			防犯部	50,000	
			交通部	50,000	
			衛生部	30,000	
			文化部	150,000	入学児童・成人の祝他文化
			婦人部	150,000	
			青年部	250,000	
			慶弔費	40,000	
			消耗品費	40,000	
			予備金	87,757	
合計		1,667,757	合計		1,667,757